

# ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要    利用者氏名：90代    男性    要介護2

利用期間    ：2024年11月    ～    現在に至る

経    過    ：

既往歴：2型糖尿病    認知症    高血圧症    狭心症    肝膿瘍    陰囊膿瘍    白内障  
腰椎圧迫骨折

元小児科医、妻と2人暮らしであったが、認知症の進行で自宅生活困難となり入居

帰宅願望・暴力行為・介護拒否などの状態に対応が困難であったが、素早い対応  
とユマニチュードケアの実践やourteamで連携しご本人とご家族に寄り添い親身な  
対応を続けた事で、短期間で信頼と安心を築け、穏やかな状態になった事例

## 内    容

2024年11月入所。ご家族は見守りに疲弊し限界を感じていた為、入所が決まり安堵されていた。しかし、ご本人は施設への不信感を強く抱き、「なぜこんな所に拘束されるのか」と繰り返し訴えられた。「帰らせろよ」と帰宅願望が激しく、職員への暴力行為や他のご入居者への暴言も見られた。コミュニケーションやケアには細心の注意を要し、食事や入浴、排泄や更衣介助等とても強い拒否を示していた。

職員は距離を保ちながら見守る事を中心に、必要なタイミングを見計らい、声掛けケアを行う事で信頼を得る事を目標とした。

看護職は内服状態の把握と体調管理を、介護職はユマニチュードケア目線を合わせる・触れるなどを実践した。リスク管理では、ご本人及び周囲の安全確保の為に事務職と連携し傾聴や付き添いなどをし、CMはご家族への情報提供を密に行った。OurTeamで連携することで精神的な安定と信頼関係の構築を目指した。

12月受診にて脳血管性認知症の診断を受ける。元小児科医として主治医とは良好な関係も支えとなり、内服薬の管理や調整がスムーズにできるようになる。ご本人は少しずつ穏やかなになり表情の変化が見られるようになった。

12月下旬には、帰宅願望の訴えはあるものの怒鳴り散らす姿は見られなくなってきていた。声掛けに対しても穏やかに応えて下さるようになり次第に受け入れてもらえるようになる。翌年1月にはご家族との面会が実現し、入所時の暴力的なご本人と今の穏やかなご本人の姿との違いにご家族は涙を流して喜ばれた。この頃より穏やかな状態は続き、帰宅願望を訴えられる事はなくなった。そこには「いつもあり

がとうね」といつも職員に笑顔で手を振って下さる姿があった。

2月以降、リハビリやレクにも積極的に参加されるようになり、今では職員の体調まで気にかけてくださる事も見られている。ご家族も「この施設に託して本当に良かったです」と話されている。

どんな困難な状況の中でもご本人とご家族に寄り添い、安心をこえた感動を提供することができたこの事例を、キラキラ介護賞として推薦致します。

【多職種の関わり】

【看護】 主治医との連携、内服状態の把握と体調管理

【介護】 安全確保と心身の状態に合わせたケア

【事務】 家族への現状報告、傾聴